

# 「人の心を動かす力」

市民参加型 戯曲リーディング公演『痕跡《あとあと》』を終えて

脚本 桑原裕子・演出 成清正紀

2018年3月25日(日) 響きホール

主催：舞台芸術の魅力発信事業実行委員会・武豊町教育委員会 助成：(一財) 地域創造

ホールに入ると、客席の両脇に衣装が並び、木のぬくもりを感じる舞台上には、処々にシンプルな四角い木の椅子。すっと照明が落ちると、落ちていた語りの声、そしてバーテンダーの独白から物語が始まる…。

鶴屋南北戯曲賞を受賞した桑原裕子の作品『痕跡《あとあと》』。東京を中心に活躍する劇団KAKUTAの俳優たちと、地域の人たちが一緒に創るリーディング公演。演劇の魅力を広めようと市民と武豊町教育委員会が舞台芸術の魅力発信事業実行委員会を立ち上げて企画し、オーディションには、知多半島はもちろん、名古屋、東京、奈良、佐賀から28名の申込みがあった。

1月から始まった稽古では、演出の成清正紀(KAKUTA団長)から「否定しない」「決めつけない」「相手のことを受ける」という基本ルールが役者たちに伝えられた。自分だけうまくやろうと思わず、相手とつながってこそ芝居が成り立つ。演劇の基本の「き」である。

プロの俳優たちの、演技と稽古に対する姿勢に刺激を受けながら、11日間に凝縮された稽古をこなし、舞台上に臨んだ11人の市民俳優たち。そして、彼らと一緒にオーディションとワークショップを受講したメンバーの有志と実行委員が応援隊を結成し、演出部や、広報、舞台の補助など『痕跡《あとあと》』武豊チームとして、裏方をがっちり支えてくれた。

出演者のアンケートからは「野心を灯し上へ上へのし上がる、それもまた一つの形でありながら、今回の様に、演劇を普段演らない方々、演劇

を普段観ない方々に対して、演劇を通して、何か人生のキッカケや種のようなモノを広げていける、そういう演劇の形の有意義さをとても感じました」「何かの偶然で集まること出来た

人達の想いが重なり、乱れず途絶えることなく消えることなく繋がった『奇跡』は、僕を本当に強くしてくれたと思います」などの声が寄せられた。

観客アンケートからも、「すばらしい作品でした。すぐ引きこまれ、最後まで心をつかまれました。涙し、何度も声がでそうになりました。それぞれの思い、それぞれの人生が交差し、また離れていく。決して大団円でもなく、結果が示されたわけでもなく、またそれぞれの時が続いていく。その後はどうなるのか。それはまた今日この作品をみたそれぞれが考えていくことかもしれません。ありがとうございました」「人の生き様、心の葛藤…何か笑えたり、涙ぐんだり、楽しかったです」など、多くの声が寄せられた。

役者、観客のどちら側にも演劇の魅力を感じてもらえたことに加え、実は、もうひとつ大きな成果があった。それまで出会うことのなかった人たちが、「一緒に何かを創りあげる」歓びを共有し、かけがえのない仲間となることで、彼ら自身が、新たなネットワークの輪を周りに広げる、エネルギーを持った「核」となっていたことである。このエネルギーを持った「核」は人の心を動かす力を持っており、さらに新たな「核」を生み出すことで、まちを活性化させる可能性を秘めている。この財産をさらに発展させていくためにも、地道にこの様な取り組みをしていくことが、地域の文化ホールに求められているのではないかと思っている。

舞台芸術の魅力発信事業実行委員会  
事務局 高橋洋子

